

TANGO

丹後普及センターだより

第24号

(平成28年10月発行)

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波855
京都府丹後広域振興局農林商工部

丹後農業改良普及センター

電話0772-62-4308

FAX0772-62-5894

丹後普及センター

検索

おいしい丹後米づくりを支援しています!

水稻の青空教室風景



3/29 丹後産コシヒカリ生産者決起大会



当センターでは、おいしい「丹後産コシヒカリ」生産支援のほか、京都府オリジナル酒造原料米「祝」、「京の輝き」の生産振興や、飼料用米の安定多収と省コスト化の検討等に取り組んでいます。

～知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権～

おいしい丹後米づくりに向けて

『特A』奪還!! 丹後産コシヒカリ生産者決起大会を開催

平成27年産の丹後産コシヒカリが、一般財団法人日本穀物検定協会が実施する「米の食味ランキング」において、最高ランクの『特A』評価を逃し、ひとつ下の『A』評価となりました。これを受け、去る3月29日、丹後米改良協会が中心となって、108名の生産者の皆さんと関係機関が一堂に会し、「丹後産コシヒカリ生産者決起大会」を与謝野町勤労者総合福祉センター（野田川わーくぱる）にて開催しました。

丹後農業研究所からは「稲作概況や気象データの分析から、過剰気味な分けつと登熟期間中の日照不足による玄米の充実不足が食味低下の要因であり、適期に中干しを行うなど、まず基本技術を忠実に励行することが良食味米生産の基本である」との説明がありました。

当センターからは「産地全体で良食味生産を盛り上げていくため、『丹後産コシヒカリ良食味米共励会』への積極的な参加を」と呼びかけました。

また、フリーライターの中島茂信氏から、全国各地の『特A』産地における生産者の創意工夫や奮闘ぶりが紹介され、参加した生産者の関心を集めました。

最後に、生産者の代表から「平成28年度には『特A』産地に返り咲きます」という決意表明がなされ、満場一致の賛同を受け、締めくくられました。

先進技術を活用した水稲栽培を試験中

近年、情報通信技術の農業分野への応用が急速に進んでいます。当センターでは研究機関と協力して、水田の気温や水温、水深等を自動で測定し、スマートフォンやタブレットでどこからでも確認できる装置について、丹後の稲作にも応用するべく試験を行っています。

従来から積み上げられた栽培管理方法に先進的な技術を取り込みながら、主食用米、酒造原料米、新規需要米などの多様な稲作それぞれの技術向上を図ることで、より強い丹後地域の稲作経営づくりを応援します。



「丹後の鳥獣」

Q. これは何の動物のフン?



野生動物による農作物の被害を防ぐためには、野生動物の種類に応じた対策が効果的です。しかし、野生動物は警戒心が強いので、現行犯で種類を特定することは難しいものです。そこで、ほ場の周辺に残された足跡、糞などの痕跡（フィールドサイン）を調べることは、動物の種類を特定する手がかりとなります。

それぞれ、どの動物の糞かわかりますか？

(※答えは4面)

管内の法人組織を紹介します

当センターでは、京力農場プランを作成し集落型農業法人を設立して、地域農業を将来にわたって持続させようという取り組みを行っている法人を支援しています。今回は、「農事組合法人 アグリ竹藤」（京丹後市久美浜町）の概要を紹介します。

農事組合法人 アグリ竹藤

■ 設立：平成27年4月 ■ 役員：5名

■ 平成28年度の経営内容（数値は概ね）

水稲 10ha、黒大豆エダマメ 1.5ha、エビイモ 10a、ショウガ 10a
ハウス 20a（ピーマン、トウガラシ、葉菜類、その他）



代表理事組合長
森本 賢一郎 氏

Q. 法人化のきっかけは？

「自分達の農地は自分達で守ろう。」から始まりました。竹藤地域は専業農家が少なく、近い将来、耕作放棄地が増えてくることが想定されたので、平成24年頃から法人化を考えました。また法人化するなら儲かる農業を目指し、地域を盛り上げたいと考えました。

Q. 法人化に向けた具体的な活動は？

平成25年頃から法人化にむけた集落説明会を行いました。が、「農業経営は補助金をもらってしか成り立たない」「TPPにより、農産物が安くなるのではないかなど否定的な意見が多く、正直、法人化は難しいと思ったこともありました。しかし、「竹藤地域の農地をなんとかしてほしい」という意見が強く、若い4人が出資を申し出てくれたこともあり、法人設立に至りました。

Q. 法人化して良かったこと

農地集積ができ、枝豆などの団地ができました。また複数人の経営なので、これまで一人で悩んでいた栽培について相談ができたり、事務と営農の役割分担もできました。

Q. これからの構想は？

竹藤産米をブランド化していきたいと思っています。また果樹のオーナー制や農産物の加工品などができれば、と思っています。

Q. 法人化を考えている集落に一言

思いがあれば行動すること。ダメだったら撤退すればいい。



秋の農作業安全運動

秋の農繁期となり、農業機械を使う機会が多くなります。日頃から安全意識を持って作業を実施し、地域での農作業事故ゼロを目指しましょう。

1. 大丈夫と思ってもムリをせず、休憩しながら余裕のある作業を心がけましょう
2. 機体が大きいコンバインの運転では、運転席からは見えない死角が多く存在します。死角なども十分に安全確認し、後進時にはより慎重に運転しましょう
3. 農業機械の点検整備・清掃の際は、簡単な作業であってもエンジンを停止し、十分な安全を確保して作業しましょう
4. ほ場の出入りや段差に十分注意して、転落・転倒による事故を防ぎましょう
 - ・トラクターでの作業が終わったらブレーキペダルの連結をしましょう
 - ・小型作業車は、スピード上げたらクラッチ操作禁止
 - ・小型作業車は、荷物を積んだらスピードダウン
5. シートベルト・ヘルメットを着用しましょう
6. 給油の時には必ず機械を停止させてから行き、こぼれたらすぐにふき取り、残った燃料は適正な容器と場所で保管しましょう
7. ビニールハウス内での耕耘機作業では、クラッチをつなぐ時はエンジン回転を下げて、ゆっくりとクラッチをつなぎましょう

農薬を安全に使用しましょう

人にも環境にも配慮!!
農薬の適正使用を

- 使用前に、ラベルの記載内容を確認しましょう
- 保護具（マスク、手袋、保護メガネ等）を安全に着用しましょう
- 農薬の使用履歴（日時や場所、農薬名、希釈倍数など）を記帳しましょう
- 周辺ほ場や民家に飛散・流入しないよう配慮しましょう
- きちんと後片付け・安全に保管しましょう



丹後のいきもの



コオイムシ
Appasus japonicus

この写真の個体はメスかオスか、お分かりになるでしょうか？
この昆虫はコオイムシと呼ばれるカメムシの仲間で、メスがオスの背（前翅上）に卵塊を産み、オスがそれを保護することで有名な昆虫です。
田んぼやビオトープなどの、水深が浅い場所に生息し、オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻き貝などを捕食します。かつては各地の水田や池などに普通に見られたそうですが、近年、生息環境の減少や水質汚染によって数が減少しており、京都府では、準絶滅危惧種に指定されています。（写真の個体は、オス）

「丹後の鳥獣」クイズ（2面）の答え

- ①ツキノワグマ（昆虫を食べた後）、②イノシシ、③ニホンジカ、④ツキノワグマ（ナシを食べた後）

ツキノワグマの出没情報は、府ホームページで公開中！（平成19年～28年）

<http://g-kyoto.gis.pref.kyoto.lg.jp/g-kyoto/top/select.asp?dtp=676>